

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	内海 緒香 【人間発達科学専攻 平成22年度生】	<p>本論文は、青年期の子どもの主観的視点から捉えた養育認知をテーマとし、その実態について調べるとともに、青年期の適応との関連を探り、子どもによる養育認知の意義や機能を実証的に明らかにすることを目的としてまとめられた。審査委員会では以下の3点を高く評価した：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Schaefer (1965) の養育態度理論をもとに、Smetana (2011) の親子関係における子どもの主観や主体性を重視する発達の構成主義的観点から養育認知に関する概念整理をおこない、親の養育に対する子どもの主観的認知を測定する新たな3因子構造の養育認知尺度を作成し、その信頼性・妥当性を確認して当該領域の発展に貢献した。 2. 1. の尺度開発にあたって、親子を対象とした養育認知に関する半構造化面接や場面想定法を用いた面接調査、中学生から大学生までの青年期全般にわたる大規模な質問紙調査など多面的な方法論によって質量ともに十分な実証的な検討がおこなわれた。 3. 養育認知と青年期の社会的適応（リスク行動、情緒や行為の問題傾向、自尊感情など）との関連性について縦断調査を含めて詳細な検討がおこなわれ、自尊感情の低さと親による心理的統制の強さが青年期の情緒的問題の二重のリスクになることなどの結果が示され、青年期の精神的健康と養育との関連に関する新たな知見を提供した。 <p>本論文に対する審査は、平成25年11月25日（月）、平成25年12月16日（月）、平成26年1月23日（木）の3回行われ、平成26年2月3日（月）に公开发表と最終審査試験が行われた。審査の過程で、各審査委員から先行研究の概観に関する問題や論文全体の構成について疑問が出されたが、これらに対しては適切に修正がなされた。さらに、公开发表およびその後の最終試験における質疑応答にも満足すべき応答が得られ、研究に対する理解力と学力が十分であると判定された。</p> <p>以上の結果から、本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻の学位、博士（社会科学）、Ph.D. in Psychology に値するものと全会一致で判断し、合格とした。</p>
論文題目	青年の養育認知に関する研究 —自尊感情・適応との関連—	
審査委員	(主査) 教授 菅原 ますみ	
	教授 内藤 俊史	
	教授 大森 美香	
	准教授 上原 泉	
インターネット公表	准教授 富士原 紀 絵	
	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	